

**サントリーホールディングス株式会社  
2025年12月期通期決算 説明内容**

説明者：サントリーホールディングス株式会社

代表取締役社長 鳥井 信宏

平素より私どもの活動にご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

2025年通期決算発表に際し、昨年の振り返りとグループの今後の体制、26年の業績予想についてご説明します。

**①2025年振り返り**

2025年は、世界の各市場における消費動向が冷え込み、当社の多くのエリア・事業にとって厳しい経営環境となりました。これは歴史的な円安や物価の高騰に見舞われた日本においても例外ではありません。しかしながら、当社は各エリアでのそれぞれのお客様に寄り添った事業展開により、売上収益は、国内では酒類・食品ともに、また海外でも食品において前年同期を上回ることができ、グループ合計で3兆4,325億円（前年同期比0.4%増）の増収となりました。

一方、営業利益につきましては、酒類では欧米での売上収益の伸び悩みに伴う利益減、食品では競争が激化しているタイ・ベトナムでの収益の悪化、そして中国での関係会社売却損に加え、保有する商標権の一部での減損という一時的な損失も重なり、グループ合計で2,212億円、前年同期比32.8%減となりました。減益の主な要因、一時的なコストの悪化については、後ほど、西川からご説明させていただきます。

**②新体制について**

今後も厳しい経営環境が予想される中、更なる成長と、利益構造を抜本的に改善すべく、新たな経営体制で臨んでまいります。

まずは私が、これまでサントリー株式会社の社長を兼任しておりましたが、今年からサントリーホールディングスの社長として、グループ全体の経営に専念いたします。国内酒類事業については、新たに社長に就任した西田が率い、2030年売上収益1兆円、国内で圧倒的なNO.1の地位を実現させます。海外酒類事業は、サントリーグローバルスピリッツのGreg CEOのリーダーシップの下、成長著しいRTD事業で新たなリーダーを迎えて強化します。また、インドをはじめとする新興市場を開拓してまいります。そして、昨日決算発表がございました、食品事業では、4月から社名をグローバル共通のサントリービバレッジ&フードへと改称し、現在サントリーホールディングスの副社長を務める木村が社長に就任する予定です。上場会社トップとして強烈なオーナーシップで、生活者を中心に置いたバリューチェーンを再構築、新たな価値を生み出してまいります。

### ③2026年業績予想

当期の業績予想です。

売上収益3兆5,800億円（前年同期比4.3%増）

営業利益2,800億円（前年同期比26.6%増）

2026年、新たな体制でスタートを切る初年度として、サントリーグループ一丸となって、昨年を上回る売上・利益を達成します。

### ④最後に　わたしたちが目指すこと・パーカス

最後に、私たちはパーカスとして「人と自然と響きあい、豊かな生活文化を創造し、「人間の生命（いのち）の輝き」をめざす」を掲げております。

サントリーグループの127年は挑戦の歴史です。お客様に寄り添って、より豊かで新しい価値の創出に挑み続けてまいります。

引き続き、皆様のご指導・ご支援のほど、よろしくお願ひ致します。ありがとうございました。

説明者：サントリーホールディングス株式会社

執行役員 経営管理本部長 西川 平

西川でございます。平素から私どもの活動に対して多大なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

私から、2025年12月期連結決算について説明をさせていただきます。

### ①当社業績について

まずは、サントリーグループの売上収益ですが、

酒税込みの売上収益が、3兆4,325億円、前年同期比0.4%増

営業利益は、2,212億円、前年同期比 32.8%減

事業の利益をはかる指標となる、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いた調整後営業利益は、2,843億円、前年同期比 10.4%減

親会社の所有者に帰属する当期利益は、866億円、前年同期比 50.8%減となりました。

### ②事業の動向について

セグメントごとにご説明します。

#### 〈飲料・食品セグメント〉

酒税込みの売上収益は、1兆7,220億円、前年同期比 2.0%増

営業利益は、1,746億円、前年同期比 5.4%減 となりました。

詳細は、昨日サントリー食品インターナショナル社が発表したとおりです。

## 〈酒類セグメント〉

酒税込みの売上収益は、1兆3,870億円、前年同期比0.4%減  
営業利益は、1,031億円、前年同期比42.9%減となりました。

スピリット事業は、酒税込みの売上収益が前年を下回りました。

ウイスキーは、ジャパニーズウイスキーの「山崎」「響」「角瓶」「TOKI」、インド市場向けウイスキー「オーカスミス」などの販売数量が前年同期を上回りました。世界的な酒類コンペティション「ISC 2025」で「山崎18年」が全部門最高賞である「シュプリームチャンピオンスピリット」を初受賞。「山崎」ブランドが3年連続で頂点に輝き、「ISC」史上初の快挙を達成しました。また、「角瓶」はジャパニーズウイスキー部門で2年連続となるゴールドを受賞しました。

ジンは、ジャパニーズクラフトジンの「ROKU 〈六〉」ブランドがご好評いただき、販売数量が前年同期を上回りました。「ROKU 〈六〉」は、「ISC」のジン部門での最高賞トロフィーを受賞しました。また、国内においてはサントリー大阪工場で設備投資を行い、生産能力増強および品質向上に取り組んでいます。サントリー大阪工場は、「インターナショナル・ワイン・アンド・スピリット・コンペティション2025」で、スピリット部門「リキュール・プロデューサー・トロフィー」を日本の工場として初めて受賞しました。

RTDは、「<sup>イチキューロク</sup>-196」「オンザロックス」、が前年同期を上回りました。RTDの最大市場である米国において「-196」の全米展開や新フレーバーを発売。「オンザロックス」は缶商品の新発売などにより、新たな顧客の獲得に努めました。国内において「-196°C製法」によるしっかりとした果実感の「-196無糖」シリーズの販売数量が前年同期比36%増と大きく伸長しました。4月に、ビールとRTDの併飲層に着目した新商品「THE P EEL 〈レモン〉」を、7月には“果物がおいしいチューハイ”「-196」シリーズを発売するなど、新たな需要創造にも取り組みました。

続いて、ビールです。「サントリー生ビール」ブランドは、飲みごたえと飲みやすさを両立した中味がご好評いただき、販売数量は前年同期比4%増となりました。業務用の瓶・樽は、12月末時点で約2万8千店の飲食店でお取り扱いいただいている。「パーフェクトサントリービール」ブランドは、力強い飲みごたえや独創的なパッケージにご好評いただき、販売数量は前年同期比18%増となりました。今年10月のビール化を発表している新ジャンルNo.1の「金麦」ブランドは、旬の食材や料理と合わせて楽しむ提案を強化しました。

ノンアルコール飲料カテゴリーは、ノンアル部を新設し、ノンアルコール飲料を“アルコール0.00%のお酒”と位置づけ、お酒がもつ価値や魅力を伝える活動を強化しました。7月に発売した飲食店向けの“ベースのノンアル”「ZEROOPPA」はご好評いただき、約5千店の飲食店でのお取り扱いが確定しています。

また、お酒の魅力とともに適正飲酒の大切さを伝える「ドリンクスマイル」セミナーの受講者数は、当初計画を大幅に上回る5万人を突破しました。今後も活動に注力してまいります。

セグメント別の実績では、酒類にて、一部の商標権について減損損失の計上を行ったため、減益となりました。

〈その他セグメント〉

酒税込みの売上収益は、3,234億円、前年同期比 3.8%減

営業利益は、205億円、前年同期比 38.9%減 となりました。

健康食品事業は、国内では機能性表示食品「ロコモア」、男性向けスキンケアブランド「V A R O N」が好調でした。また9月にはアイケアサプリメント「ピントW（ダブル）」を発売し、新規ユーザー増加に取り組みました。海外ではタイで睡眠改善を助けるサプリメント「VISTRA Sesamin Night Time」を発売するなど、グローバルでの事業拡大にも注力しました。

なお、中国のワイン輸入・販売会社の売却損の計上もあり、その他セグメントは減益となりました。

③2026年の見通しについて

最後に、2026年の年間業績見通しについて、ご説明いたします。

酒税込みの売上収益は、3兆5,800億円、前年同期比 4.3%増

営業利益は、2,800億円、前年同期比 26.6%増

調整後営業利益は、2,920億円、前年同期比 2.7%増

親会社の所有者に帰属する当期利益は、1,150億円、前年同期比 32.8%増

今後もグループ一体となって、長期的かつ持続的な成長を目指してまいります。

私からの説明は以上です。今後とも、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

以上